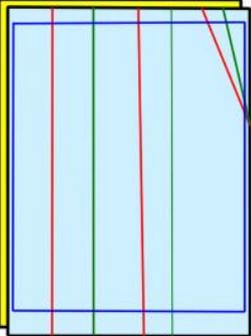
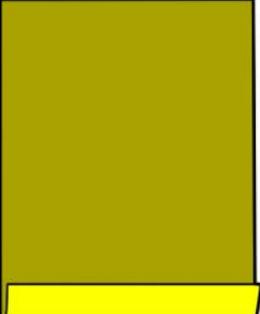
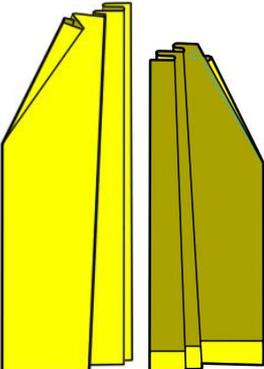
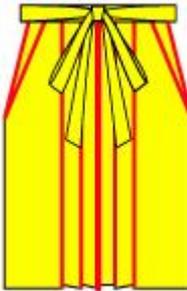
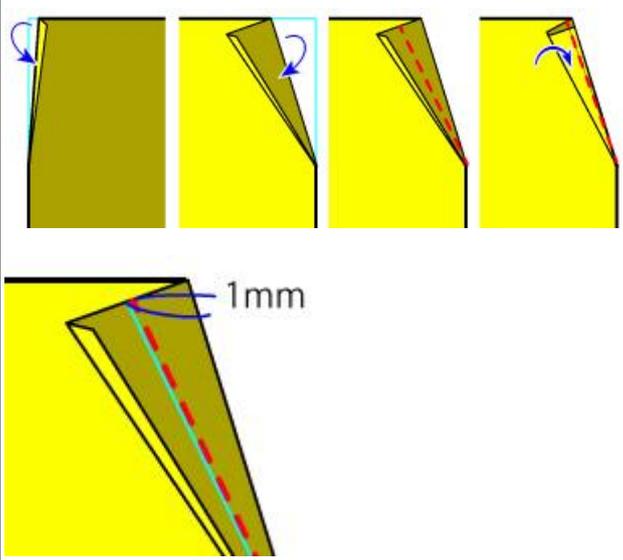
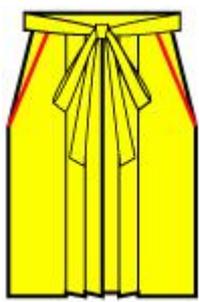
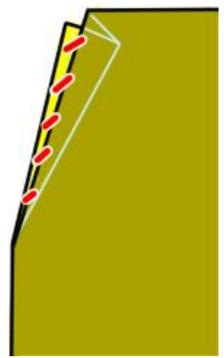
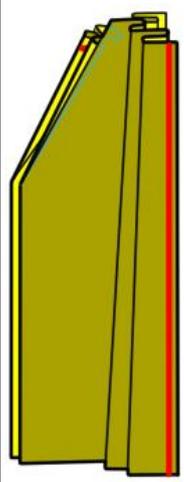
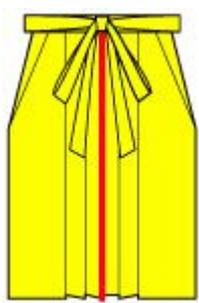
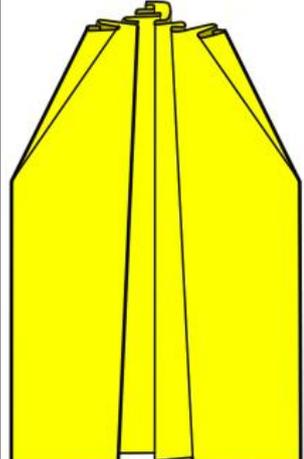
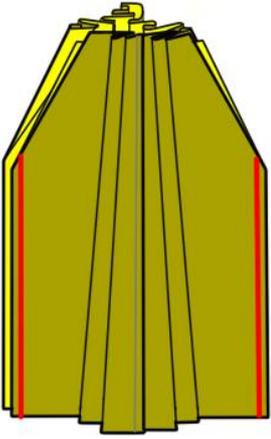
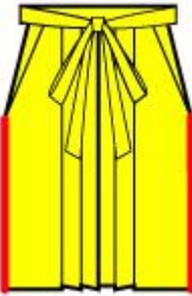
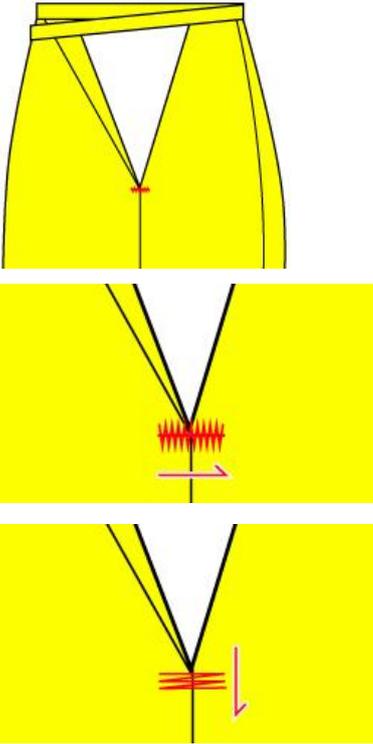
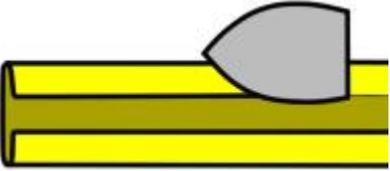
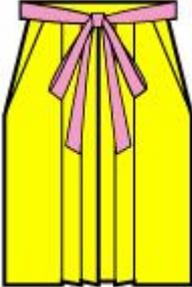
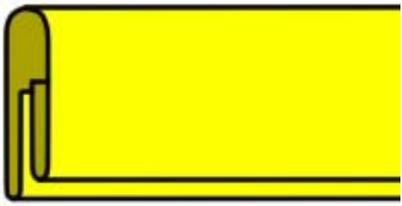
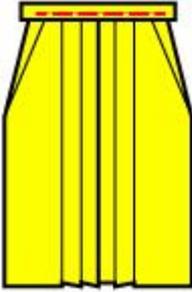
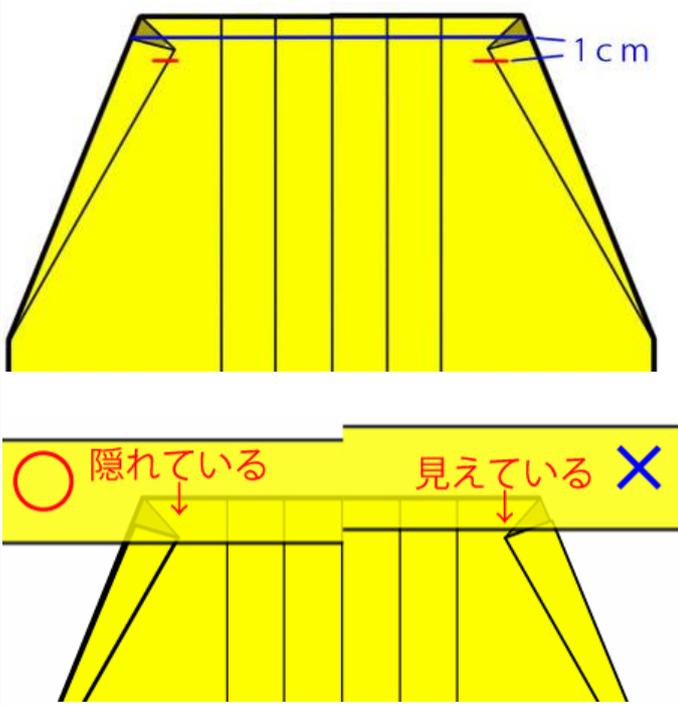
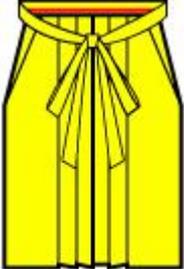
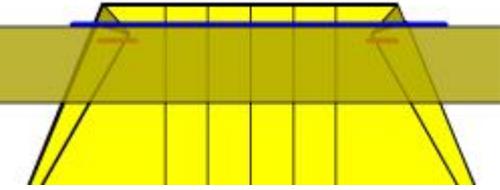
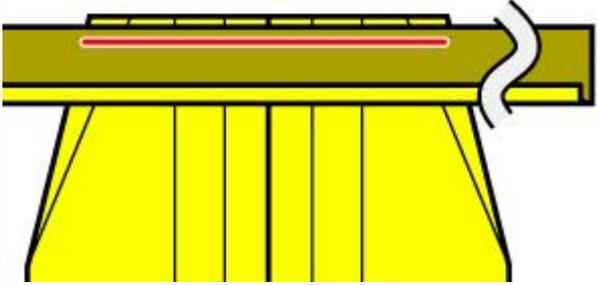
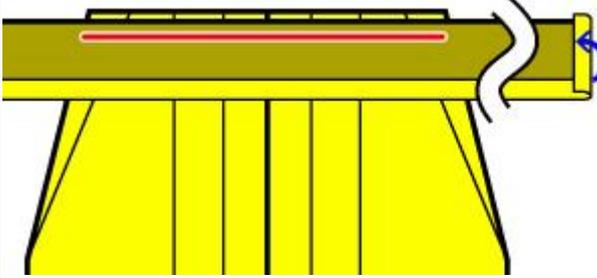
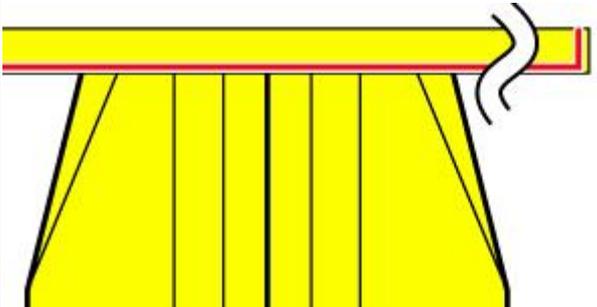
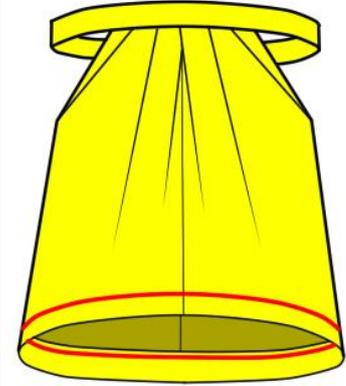
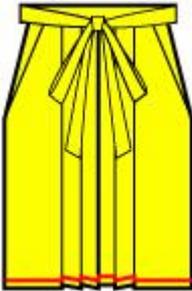


 <p>表 裏</p> <p>帯の接着芯は布を切った後に貼ってください</p>	<p>裁断した全てのパーツの端をほつれどめめをしてください。</p> <p>ほつれ止めと接着芯の貼りがわからない方は縫う前の下準備にまとめています</p> <p>模様とかをつけたい場合はこの時点で入れてください。</p>
	<p>柄は左右が混乱しやすいと思うので布の表に型紙を重ねて印をつけると間違いにくいです。</p> <p>重ねてとるより、1枚ずつとったほうが失敗せずに済みます。</p> <p>裏表が分かりにくい生地は縫い代の裏に、チャコペンなどで「裏」と書いておくと間違いにくいです。</p>
	<p>表から印をつけると左右混乱しなくて済みます。</p> <p>しつけ糸を使うと裏表両方から印が見えるのでおる時に便利です。</p> <p>このとき山折と谷折で色を変えておくと間違いにくくてオススメですよ。</p>
	<p>すそをアイロンで折ってください。</p>
 <p>実際に型紙を一度折りたたんでみると理解しやすくなりますよ。</p>	 <p>ヒダを型紙どおりに折ってください。(すその縫い代を折ったまま折る)</p> <p>山折、谷折の指示は表から見たときの折り目です。</p> <p>生地を折る前に、実際に型紙を一度折りたたんでみてください。</p> <p>型紙に山折、谷折が書いてあるので迷わず折れると思います。</p> <p>その折り目と同じように折れば出来上がります。</p>

	 <p> 笹ヒダ(脇の斜めの折り目)を折ってください。 (1)外側から1つ目のヒダを裏へ折ってください。 (2)3つ目の線で表に折ってください。 (3)2つ目の縫い目の1mm外を縫ってください。 (4)2つ目の線を山折してください (5)端から5mm 位のところを縫って固定してください </p>
	<p>(5)で縫い目が見えるのが嫌な人は、裏から表に出ないように手縫いで縫って固定してください。</p>
	 <p> 左右の前身頃の中央を縫ってください。 左右の後身頃の中央を縫ってください。 この時ヒダを縫いこまないように気をつけてください。 </p>
	<p> 広げる。 中央の縫い代は表から見て左側に倒す。 中央のヒダが重なります。 その時右側のヒダが上になります。 折ったら出来上がり線の5mm上を縫って固定する </p>

	 <p>前と後を内側が表同士になるように重ねる。</p> <p>脇を縫う。</p>
	<p>まっすぐ縫っただけだと脇が破れやすいので、縫い合わせた一番上のところを縫って補強します。</p> <p>ミシンのジグザグ縫いを選択し、縫い目の長さを短くして縫ってください</p> <p>横幅の狭いジグザグの場合は上の図のように。</p> <p>横幅の広いジグザグができるなら上下どちらでも大丈夫です。</p>
	 <p>帯を作る。</p> <p>帯の縫い方は前も後も同じです。</p> <p>アイロンで縫い代を折る。</p>
	<p>半分にアイロンで折る。</p>

	 <p>紐をつける場合は紐を通す穴を開ける。 カッターなどで直接切り込みを入れる</p>
	<p>図のように紐を通す。 2本一緒に通しています。</p>
	<p>図のように端をひとつ手前の裏に出た紐にくぐらせてください。 糸等で縫って固定するとより外れにくくなる。</p> <p>←左の写真は神社の宮司さんの斎服を解かせていただいたものの写真。 中心部分には接着芯ではなく、厚手の和紙が入っていました。 でも一般では手に入らないと思うので接着芯を使ってください。</p>
	 <p>ヒダを折ると両端の笹ヒダの上側が内側に入るので 表に出ないようにするために、笹ヒダの下がった所から2~4mm下がった所に印をつけてください</p> <p>そこから1cmの所に線を引いてください。</p>  <p>この線に帯の端を合わせて1cmの縫い目で縫うと表から笹ヒダの端が見えません</p>

	<p>表を上にした身頃の上に帯を裏を上にして重ねる。</p> <p>帯の中心と、身頃の中心を合わせる。</p> <p>前に長い帯、後に短い帯をつける。</p> <p>長い帯が前身頃</p> <p>短い帯が後ろ身頃につきます</p>
	<p>帯の端を裏へ折ってください。</p>
	<p>アイロンでつけた折り目で帯を裏側へ折って端から5mmの所を縫ってください。</p>
	 <p>すそを内側に折る。</p> <p>すその上端 5mmの所をミシンで縫うか、手縫いでまつり縫いする。</p>
	<p>着方</p> <p>先に前の帯を2週巻いて後で結ぶ。</p> <p>次に前帯の結び目に後の帯が乗るようにして前でちょう結びをする。</p>

必要な道具

表生地、接着芯（20 c m×31 c m 2枚）、糸

オススメの生地

厚すぎない張りのあるツイル

かばんなどにつめて持っていくコスプレ衣装等の場合は、シワの入りにくい原材料がポリエステルの方がいいと思います。

柔らかいツイルは折り目をつけるのが大変なので避けたほうが無難です。

ブロード

薄手で少し張りのある生地です。

色、柄の多い生地です。

ただし薄い色の場合透けやすいので裏地をつけるか厚いものを選ぶのがいいでしょう。

薄いのでペラペラしてしまいやすいので、洗濯のり（スプレーキーピングなど）をかけて張りを出してから使うといいと思います。

シャンタン

横糸が太くてところどころ節があり素朴な雰囲気がありながら光沢があったりするのでパリッとしていながらやさしくて上品という不思議な風合いです。しわになりにくいポリエステルのももあります

接着芯

張りのある不織布タイプが向いています。

接着芯がない場合は、厚みのある和紙を何度か折りたたんで厚みを出し、包んでください。

洗濯をしたいなら、接着芯が手入れも楽でいいと思います